

【松江市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

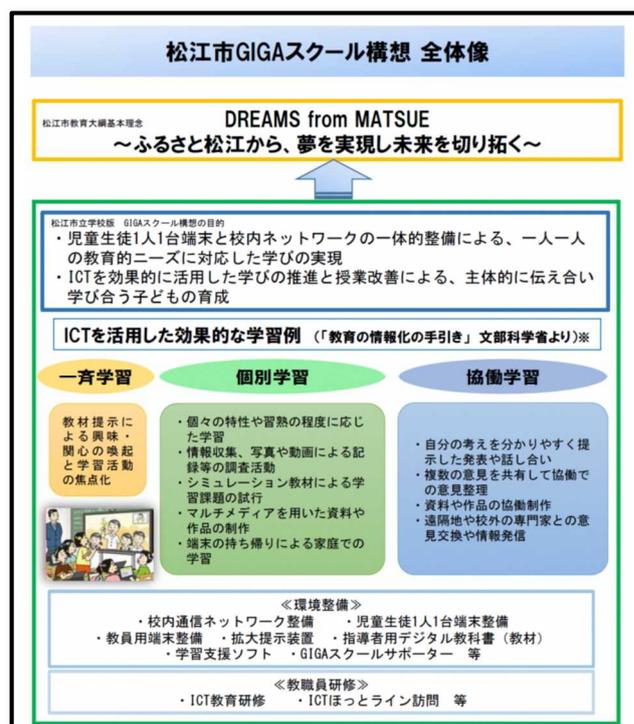
松江市教育大綱の基本理念「DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～」に基づき、児童生徒1人1台端末と高速ネットワークの一体的整備により、個別の教育的ニーズに対応することで、“主体的で個別最適な学び”と“協働的な学び”の実現を図る。この学びの実現によって、①こどもたちは自ら考え、行動する力を身に付ける。②学習意欲が向上し、自己肯定感も高まり、社会での活躍に必要なスキルや、安全かつ適正に情報技術を活用できる知識を効果的に習得できるようになる。③多様な学びの機会を通じて、協働する力や問題解決能力も育まれる。以上の3点の学びが進められ、デジタル社会で活躍できる人材育成をめざす。

2. GIGA第1期の総括

第1期では、環境整備と教育現場での効果的なICTの活用、そして教職員研修等を推進してきた。令和3年度には本市のICT利活用についてまとめた「松江市GIGAスクール構想」を策定し、市が一体となって計画的な推進をめざした。

(1) 1人1台端末の利活用

令和2年度の導入時から、教職員の研究や教育委員会からの活用支援により徐々に授業での活用の場面を増やしていった。令和6年度の全国学力・学習状況調査において、1人1台端末などICT機器を授業で使用した回数が週3回以上という回答が、小学校が93.9%、中学校が88.2%との結果がでた。また令和4年度からタブレットドリルを導入し、宿題として活用されたことで持ち帰り学習も進んだ。



松江市GIGAスクール構想（令和4～6年度版）

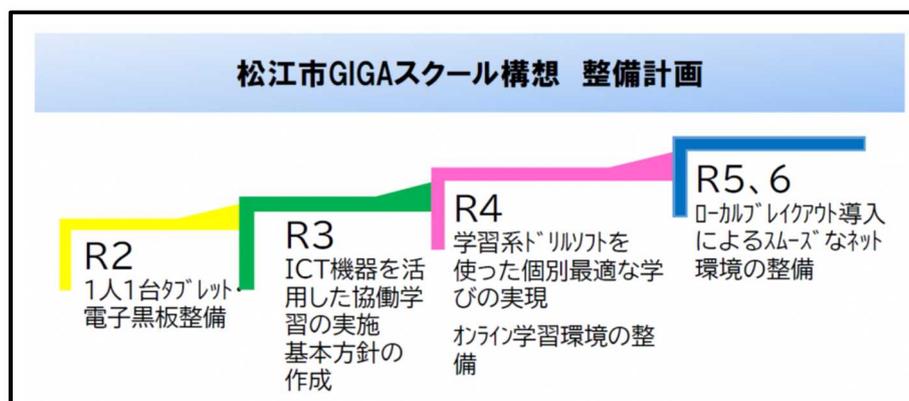
【参考】 夏休みの端末持ち帰り学習の実施（小・中・義務教育学校の合計）

R4：28% ⇒ R5：85% ⇒ R6：96%

ただし、クラウドを活用した共同編集や情報共有といった効率的な学習を行うといった授業改革については課題が残る部分であり、今後先進地の事例の共有、学校間での情報交換等に積極的に取り組み、市全域での取り組みの底上げを図る必要がある。

(2) 環境整備

計画に基づき、1人1台端末等ICT機器を整備するとともに、令和5年度には、学校現場から中央サーバーを経由せず直接インターネットに接続する「ローカルブレイクアウト」を導入するなど、端末と高速ネットワークの一体的な整備に取り組んだ。



松江市GIGAスクール構想（令和4～6年度版）

整備計画は順調に進んでおり、引き続き運用と管理を行っていくとともに、1人1台端末をはじめとした各機器の円滑な更新を行っていく。

(3) 教職員研修

教育指導講師2人をICT活用教育専任（ICT支援員）で教育委員会に配置し、授業支援及び教員向けの研修の開催等、ICT活用教育の充実を図った。また市内各校ではICT教育推進リーダー教員を選任し、教育委員会と学校の情報共有や連携体制の強化を図りつつ、各校の研修計画・活用計画の立案をするなど取り組んだ。

【参考】ICT活用に係る教職員研修 R6実績

- ・ICT教育推進リーダー研修 2回
- ・各校教職員研修 49回（概ね各校1回ずつ）
- ・訪問サポート 166回
- ・その他電話等でのサポート など

研修等により授業活用が進んだところもあるが、学校や教職員によって進捗に差があることが課題となっている。ICT教育推進リーダーを中心に、学校間と学校内の情報交換を積極的に行うようにし、市全体として利活用が進むよう取り組む。また、校務DXを進めることで教育環境全体のICT活用を進める。

(4) リーディングDXスクールの取り組み

本市の義務教育学校が、文部科学省「リーディングDXスクール」の指定校（令和5年度・6年度）となっており、授業と校務でICTを活用した改善に取り組んだ。実践内容や結果は、研修等で市内各学校にも共有しており、引き続き情報の発信と各校での実践を進める。

3. 1人1台端末の利活用方策

「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれにおいて、1人1台端末を日常的に活用するとともに、端末の更新を機にさらにICT活用教育を推し進める。具体的には、教職員の研修等を土台としながらクラウドの活用、データの活用を進めることで“主体的で個別最適な学び”の実現をめざす。

(1) クラウドの活用

授業においてクラウドツールを活用した意見や情報の共有、共同編集等によって学習の効果と効率を向上させる。加えて、児童生徒が意見を出し合う機会が増えることなどにより、主体的に学習する気持ちを育てる。また、不登校や感染症、災害などにより登校ができない児童生徒にも、遠隔授業やクラウドの活用によって学びをとめることのない環境を整備・維持する。

(2) データの活用

1人1台端末を使用することで蓄積された学習データや、ダッシュボード機能等を活用し「児童生徒の長所を伸ばし短所を補う」「特別支援の内容の参考にする」など、それぞれの教育的ニーズに合わせた個別最適な学習を行う。加えて、個別最適な学びを児童生徒に提案することで、こどもたち自身が自分に合った学習方法を考える気持ちを育てる。

(3) 教職員の研修

継続的に先進的な事例などを取り入れた教職員研修を行うことで、効果的なクラウドやデータの活用を進める。また、1人1台端末の利活用を進めるためにも校務においてもクラウドやデータの活用を進め、教職員の働き方改革にもつなげる。